



こんな本も読んでみましょう

選者：東京都台東区立金竜幼稚園 園長 大野 紀子

作：新美 南吉

## 「ごんぎつね」

小ぎつねのごんの、いたずらのせいでおこったことは？

いたずらな小ぎつねのごんは、村の兵十(ひょうじゅう)が、びょうきのお母さんのためにつかまえたウナギをにがしました。母親がしんだことを知り、わかったと思ったごんは、兵十のために、クリやマツタケをとどけました。しかし、またごんが、いたずらに来たと思った兵十は…。

作：新美 南吉

## 「牛をつないだ樁(つばき)の木」

水をのんでいるあいだに、牛が樁の葉をたべてしまいました。そこで…

利助(りすけ)と海蔵(かいぞう)が、山道から遠くのわき水をのんでいるあいだに、利助の牛がつながれていた樁(つばき)の木の葉を食べてしまいました。利助はじめしさんにおこられます。そこで海蔵は、自分でお金をためて、もう少し近くに、いどをほることにしました。やがて、お金をためることができたので、じめしさんにいどをほることをたのみに行きましたが…。

作：浜田 廣介

## 「ないたあかおに」

村人となかよくなりたいた赤おにの、ねがいをきいた青おには…

山にすんでいた赤おには、村の人となかよくなりたいたと思っていましたが、おにをこわがって村人はちかづきませんでした。そのはなしをきいた青おには、村に行き、わざとあばれました。そこへ、赤おにが村人をたすけに行き、村人となかよくなることができました。でも、そのあと青おには…。

作：宮沢 賢治

## 「注文の多い料理店」

山の中で「やまねこけん」という、りょうりてんにはいると…

山おくにりょうりに出かけた2人は、えものをとることができず、道にまよいました。「やまねこけん」という、りょうりてんを見つけてはいると、『くつをぬぐ』『きんそくをはずす』『体にしおをつける』などの、ちゅうもんが多くかかれています。やっと、おかしいときづいた2人は…。